

創造的イルミネーション事業〈ヨルノヨ 2025〉の実施に係る 景観推進地区（関内地区：山下公園内ほか）での景観形成について（審議）

【審議事項】 景観計画における屋外広告物の表示に関する制限のただし書き適用について

イベントエリアのうち、関内地区では景観法に基づく景観計画において、屋外広告物について制限（※1）しています。山下公園および大さん橋ふ頭ビル・大さん橋国際客船ターミナル入口において制限を超える投影期間及び投影時間の演出（※2）を行うため、ただし書きの適用（※3）について、ご審議いただくものです。

（※1）【制限の内容】景観計画（抜粋）

第5 屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項
関内地区にふさわしい秩序ある広告景観を形成するため、特に定める屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限は、次のとおりとする。（※3）ただし、市長が横浜市都市美対策審議会に意見を聴いた上で、魅力ある都市景観の創造に特に寄与するものと認めた場合は、この限りでない。

1 関内地区全域の制限

＜投影広告物＞

（1） 投影広告は、表示することができない。ただし、催物等のために表示するもので、次のいずれかに該当し、魅力的な景観に寄与すると市長が認めた場合は、この限りでない。

ア 投影期間を原則として7日以内とし、投影開始日については、同一区域における前回の投影期間終了日の翌日から起算して、前回の投影期間の5倍の日数を空ける場合

イ 投影時間が原則として1日あたり 10 分以内である場合

（2） 投影広告物の表示については、2 の地区別の制限は適用しない。

（※2）【規定を超える演出内容】

イベント開催期間中（連続 27 日間）、山下公園の芝生広場においてインタラクティブなプロジェクションマッピング、大さん橋ふ頭ビル・大さん橋国際客船ターミナル入口へのイベントロゴマーク等の投影を行います。山下公園での投影時間は 17:00-21:05 の合計 4 時間 5 分／日、大さん橋ふ頭ビル等への投影時間は 16:30-21:05 の合計 4 時間 35 分／日となっています。

【審議事項に対する本市の見解】

創造的イルミネーション事業の取組みは、音楽ホールや美術館で体験するものではなく、体験したいと思う人だれもが参加可能な屋外の公共空間で行われるもので、デジタル技術を組み合わせて活用したイベントとなっています。今回の審議対象となっている投影広告は一時的に横浜の景観的な特徴や歴史的建造物を際立たせるイベントの一部として、魅力ある都市景観の創造に特に寄与するものと考えます。

1 イベント開催主旨

ヨルノヨは、国内外から選ばれる夜のコンテンツを創出することで来街者の回遊性向上や滞在時間の延長を図り、にぎわいづくりにつなげることを目的に開催します。

横浜ならではの港の景観やスケール感、公共空間の豊かさを生かして、都心臨海部の街を光と音楽で一体的に演出し、魅力的な夜間景観を創造します。

2 実施概要（参考資料 P4）

〈名称〉夜にあらわれる光の横浜〈ヨルノヨ ^{ニーズロニーズ} 2025〉

〈期間〉令和7年12月4日（木）～令和7年12月30日（火）17時～21時05分（27日間）

〈体制〉主催：クリエイティブ・ライト・ヨコハマ実行委員会

共催：横浜市

連携：クリエイティブ・ライト・ヨコハマ推進協議会

〈構成〉（1）時間限定の演出（ハイライト・オブ・ヨコハマ）：45 施設予定

（2）公園等の演出：山下公園（芝生広場）、大さん橋国際客船ターミナル屋上広場

（3）回遊性向上のための演出：大さん橋ふ頭ビル・大さん橋国際客船ターミナル入口へのイベントロゴマーク等の掲出、街中へのクジラをモチーフとした照明機材（ハイライト・オブ・ヨコハマと連動）の設置など

（参考）地域をつなぐ取組「夜の横浜イルミネーション 2025-26（仮称）」：新港中央広場、山下公園通り（令和7年11月1日（土）～令和8年2月28日（土））

3 【演出テーマ】花の港

花をテーマとし、夜の港を光で演出します。（1）時間限定の演出（ハイライト・オブ・ヨコハマ）では、いろとりどりの街の灯を咲き乱れる花に見立て、街全体を範囲とした空想の光の庭園を描きます。また、（2）公園等の演出では、演出の一部に花をモチーフとした色や映像を取り入れたりすることで、広大な範囲を統一したコンセプトのもとに演出します。冬の夜の横浜の新たな魅力を発見につなげ、魅力を体感してもらうイベントとします。

4 審議の内容

対象施設等と行為の概要

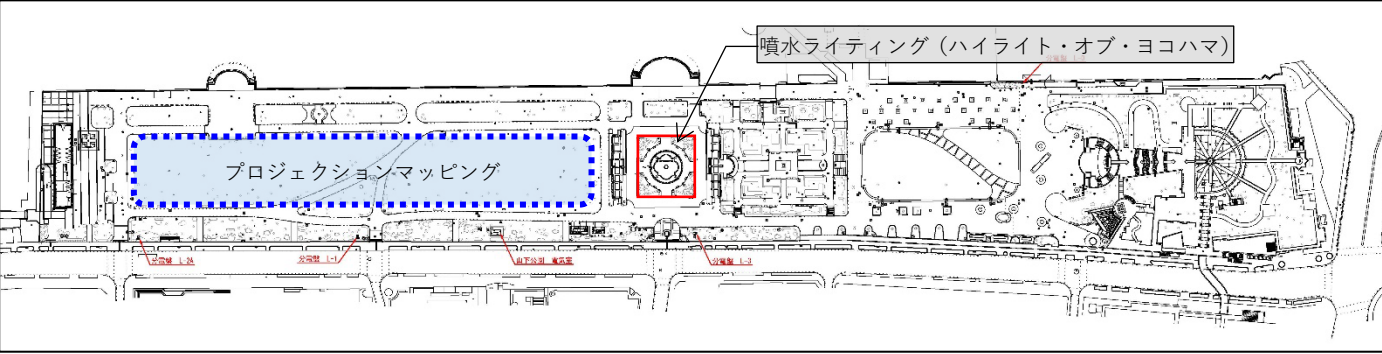
都市美対策審議会において、景観等に係る事項について審議頂きたい内容は、3つの投影広告物（①インタラクティブなプロジェクションマッピング、②ロゴマーク等の投影（2か所））についてです。



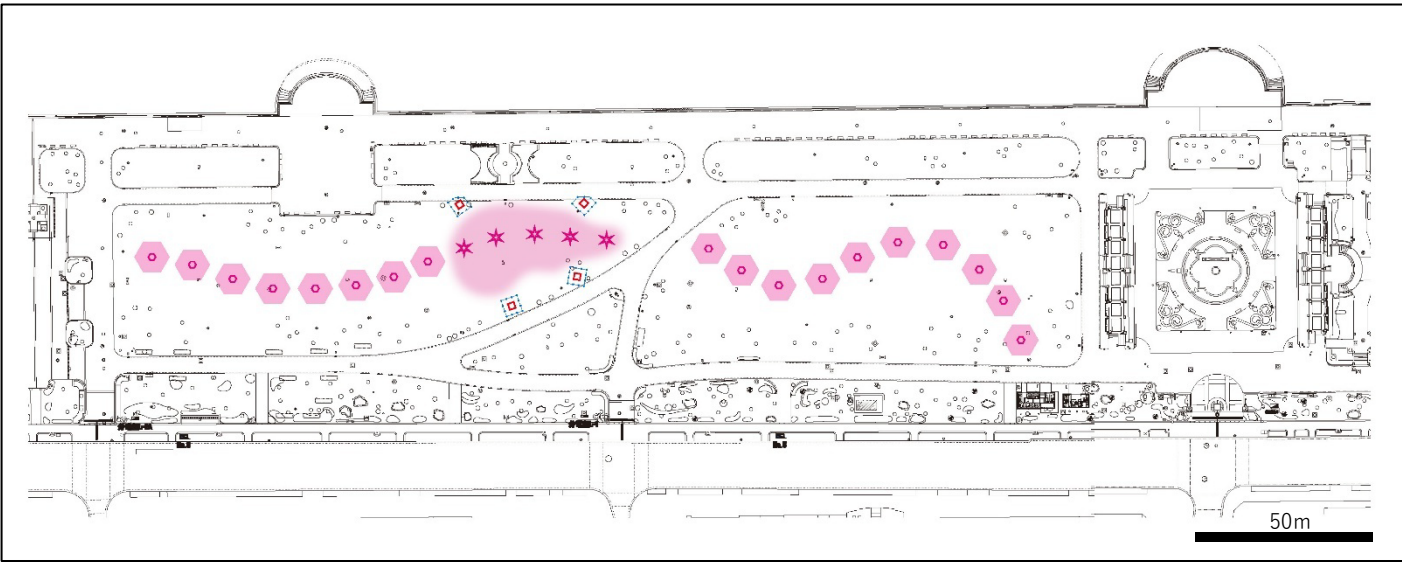
対象施設の配置（横浜市景観計画関内地区（①景観重要公共施設のうち景観重要都市公園、②大さん橋及び象の鼻周辺準特定地区内））

① 山下公園でのインタラクティブなプロジェクションマッピング

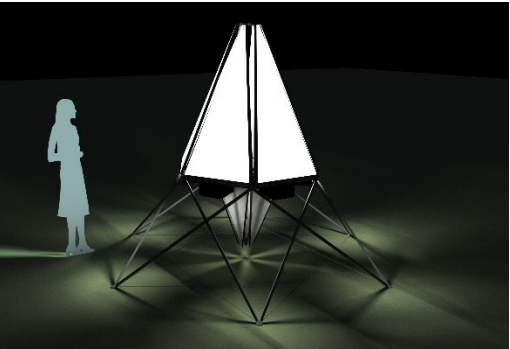
山下公園の芝生広場において演出テーマを具現化するものとして、〈スターフラワー〉〈スターツリー〉（投影装置）を設置します。〈スターフラワー〉〈スターツリー〉と芝生面から樹木に至る広場全体で、来場者の動きに反応する大規模な光のインタラクティブ演出を行います。



山下公園内配置図



設置物位置図

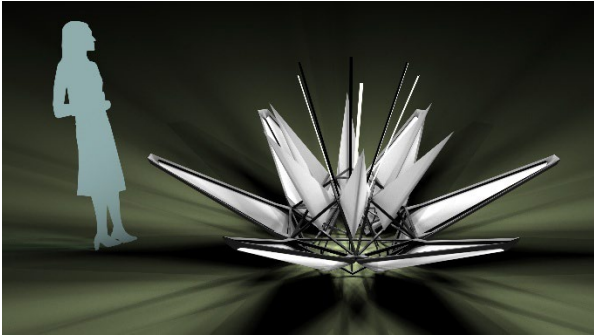


- スターツリー＝Φ3000*H2300 18 台
投影範囲＝約 Φ12m（計約 2035 m²）
- スターフラワー＝Φ3000*H2300（閉時） 5 台
投影範囲（全体）＝約 Φ50m（約 1963 m²）
- イントレやぐら＝W1800*D1800*H5700 4 台

スターツリー姿図



スターフラワー姿図（閉時）



スターフラワー姿図（開時）

投影演出の内容

- 対象施設：山下公園（芝生広場）
- 投影映像：投影装置による映像・画像の投影
- 投影時間：17:00-21:05 合計 4 時間 5 分（連続 27 日間）
- 演出時間構成（ ）内分数
- 17:00～17:05（5）[時間限定の演出] 17:05～17:30（25）[通常演出]
- 17:30～17:35（5）[時間限定の演出] 17:35～18:00（25）[通常演出]
- ～以下、5 分・25 分の繰り返し～
- 21:00～21:05（5）[時間限定の演出]

【演出イメージ】

〔時間限定の演出〕（5 分間／30 分毎）

芝生広場において周辺の照明と連動した映像装置を用いるプロジェクションマッピングを行います。プロジェクションの内容は、演出テーマに沿った映像を投影します。

〔通常演出〕（25 分間）

センシングされた人の動きに呼応して、リアルタイムに生成される映像を投影するなど、参加型、ここでしか体験できない先端的な取組で都市の魅力を高める演出とします。



〔通常演出イメージパース〕

審議事項①（資料 2-2 参照）

投影演出の意義

投影広告物は、公園内の芝生広場（芝生面）でのプロジェクションマッピングで、来場者はだれでもマッピング内の園路を通行でき、プロジェクションの光の中に飛び込むような感覚を味わうことが可能で、特別演出では街全体で取り組む光と音の演出との一体感を体験できます。

こうした演出が、魅力ある夜間景観の創造に寄与するものと考えます。

投影演出上の配慮

投影場所は、公園内の地面（芝生）に投影するもので、周辺を高木及び灌木で囲まれており、公園の外からは見えにくい場所にあるため、周辺道路を通行する車両からは見えず、交通安全上の影響はありません。

②大さん橋ふ頭ビル・大さん橋国際客船ターミナル入口へのイベントロゴマークの投影

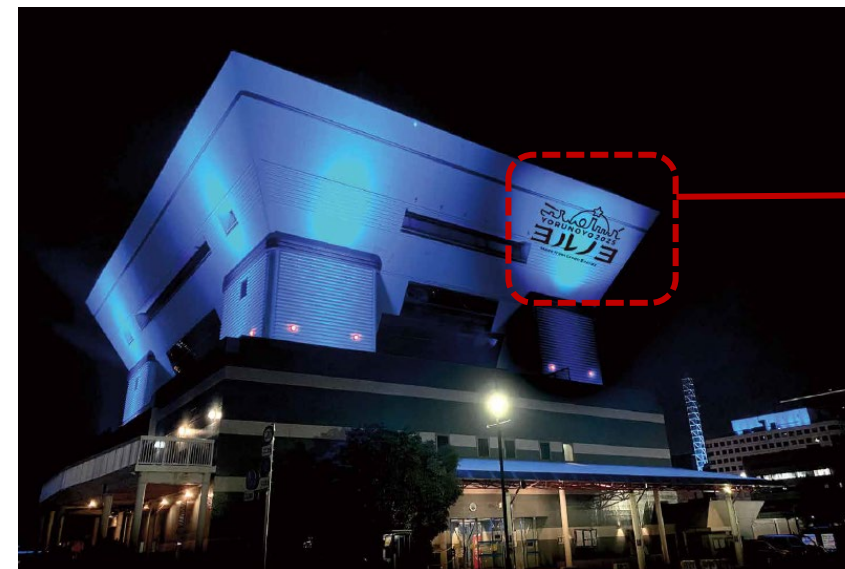
街全体がイベント会場であることの雰囲気を出すとともに、山下公園や大さん橋国際客船ターミナルへ向かう方への目印となるよう、大さん橋ふ頭ビル・大さん橋国際客船ターミナルの入口の北西面にイベントロゴマークを投影します。

投影演出の内容

対象施設：大さん橋ふ頭ビル・大さん橋国際客船ターミナル入口

投影映像：ゴボライトおよびプロジェクターによるロゴマーク等の投影

投影時間：16:30-21:05 合計 4 時間 35 分（連続 27 日間）



〔イメージパース（大さん橋ふ頭ビル）〕

審議事項②

- ・ ヨルノヨのロゴマークを投影するもの
- ・ 点灯のみで点滅や回転などの動きはないもの
- ・ 横 8m×縦 5m



〔イメージパース（大さん橋国際客船ターミナル入口）〕



審議事項③（資料 2-3 参照）

- ・ ヨルノヨのロゴマークとクジラの形を投影するもの
- ・ 加えて会場の方向を示したり、滞留を避けるような喚起情報を掲出し、会場までのスムーズな来場を誘導する。

投影演出の意義

イベント会場となっている大さん橋国際客船ターミナルと山下公園は、いずれも街とのつながりを感じにくい立地等の条件となっています。そこで、両会場をつなぐ位置にある大さん橋ふ頭ビルにヨルノヨのロゴマークを投影することで、来場者に対して会場の近くであることの道しるべとなるほか、高揚感を高めるツールになると考えます。また、大さん橋国際客船ターミナルは施設の入り口から奥行きがあり、会場の屋上広場が分かりづらいという声をが多くあったことから、誘導サインと併せてロゴマークを投影します。

結果、街全体でのイベントであることを示しつつ、回遊性を高める効果も期待でき、魅力ある夜間景観の創造に寄与するものと考えます。

投影演出上の配慮

投影の大きさは大さん橋ふ頭ビルは施設の壁面の面積に対して 5%程度（壁面約 750 m²に対して投影面積約 40 m²）、大さん橋国際客船ターミナルは当該部分の壁面の面積に対して、14%程度（壁面約 280 m²に対して投影面積約 39 m²）とし、視認性を確保しつつ過度な大きさにならないものとしています。

P1 2 実施概要（参考）

（1）時間限定の演出（ハイライト・オブ・ヨコハマ）

都心臨海部の歴史的建造物や港のランドマークとなる施設、水際線等、街全体をキャンバスに、光と音楽で躍動する時間限定のショーを実施します。今年度は、横浜市歴史的認定建造物である汽車道港一号橋梁のほか、ザ・ゲートホテル横浜などを新規の参加施設とし、横浜らしい景観を構成する建物を改めて感じられるようにするとともに、街なかに設置するオブジェ“クジランプ”や一部の施設に設置する縦方向に伸びるレーザー照明等によりスケール感を感じられるよう演出します。

【演出時間】30分ごとに5分間程度（17時開始、21時最終 計9回 45分）

今年度は、5分間のショーの前に1分間の点灯・点滅時間、ショーの後に30秒間の点灯時間を設けます。来街者の期待感の醸成や鑑賞の準備、写真撮影のための時間となることを想定しています。

【対象施設】45施設予定（R6：42施設）（資料2-4参照）

（2）公園等の演出：山下公園（芝生広場）、大さん橋国際客船ターミナル屋上広場

ア 【山下公園】：[4 審議の内容①]のとおり

イ 【大さん橋国際客船ターミナル屋上広場】

大さん橋国際客船ターミナルは、街全体が光と音楽で躍動するショー（時間限定の演出）を最も体感できるメインビューポイントであり、街を巡る周遊のポイントとなる重要な場所です。

ハイライト・オブ・ヨコハマとともに、屋上広場の起伏を活かし、来場者向けのダイナミックなプロジェクトレーションマッピングを実施します。なお、プロジェクトレーションマッピングは、屋外広告物に該当しない内容とします。



〈山下公園のイメージパース〉



〈大さん橋国際客船ターミナルのイメージパース〉

いずれの場所も開催期間中、常にも楽しめるプロジェクトレーションマッピング等を行い、時間限定の演出時（ハイライト・オブ・ヨコハマ、17:00～21:05の間30分に1回、計9回 45分／日）には、周辺施設と連動した演出を実施します。

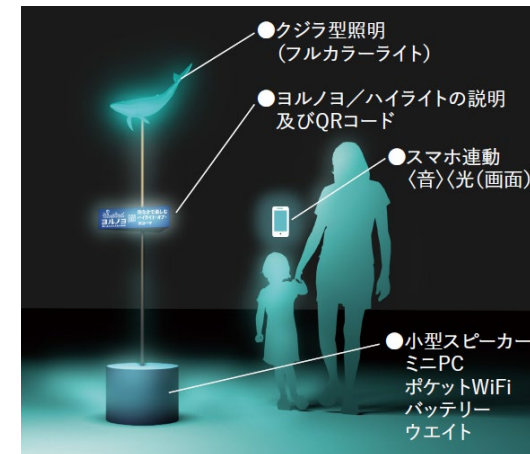
（3）回遊性向上のための演出：大さん橋ふ頭ビル・大さん橋国際客船ターミナル入口へのロゴマーク等の掲出、クジラをモチーフとした照明オブジェ〈クジランプ〉

ア 【大さん橋ふ頭ビル・大さん橋国際客船ターミナルへのロゴマーク等の掲出】：[4 審議の内容②]のとおり

イ 【クジラをモチーフとした照明オブジェ】〈クジランプ〉

ヨルノヨの案内機能を備え、来街者の回遊性を促進するため、桜木町駅前広場、汽車道、新港中央広場などくじら型の照明オブジェを設置します。全30箇所（予定）のうちの一部は時間限定の演出と連動した演出を行います。これまでの遠景を中心としたビューポイントのほか、近景のビューポイントを際立たせることにより街との連動をより体感し、新たな魅力ある夜間景観の発見につながると考えています。

また、オブジェの設置のほかあわせて、デジタルスタンプラリーや商店街等とのイルミネーションの広報連携により更なる回遊性の向上を図り、横浜の夜の街を盛り上げます。



〔クジランプの姿図〕

（参考）地域をつなぐ取組：新港中央広場、山下公園通り（11/1～2/28 予定）

新港中央広場の芝生面と山下公園通りのいちょう並木をライティングします。色や動きに変化を出すことにより、人の動きをつくります。



〔新港中央広場のライティング（R6 年実績）〕



〔山下公園通りのライティング（R6 年実績）〕

■（参考）脱炭素社会へ向けた取組み

〈ヨルノヨ 2024〉では、イベントで使用する電力の一部をバイオディーゼル発電機からの再生可能エネルギーを使用しました。燃料はB100を用いることで、二酸化炭素排出量を実質ゼロに抑えています。

〈ヨルノヨ 2025〉においても、引き続き、イベント使用電力のうち、再生可能エネルギーの割合は75%とし、再生可能エネルギーでない既存電力（全体の約25%）については、クレジットを利用しカーボン・オフセットを行うなど、脱炭素に向けた取組みを行います。また、再生可能エネルギーの使用を中心に、メディアを通じた取組の発信及び来場者への温暖化対策等の普及啓発にも力を入れるなど、脱炭素社会の実現に向けて取り組みます。